

政務活動報告書

1 政務活動名

政務活動名 「観光における民泊と体験観光の視察研修」

11月30日（水）～12月2日（金）

視察先 沖縄八重瀬町自然体験学校 民泊先 神谷清治宅

2 政務活動内容

●沖縄県八重瀬町

八重瀬町は2006年に島尻郡東風平（こちんだ）町と具志頭（ぐしちゃん）村が合併して出来た、沖縄本島の南部に位置する町です。元々八重瀬町には那覇や名護とは違い観光資源に乏しく、観光客がほぼ0の町だった。しかし体験学習で修学旅行を受け入れる事により、整備が進み、今では沖縄一の修学旅行生の受け入れ先となっている。



●自然体験学校による八重瀬町の魅力発信（ガイドによる）

沖縄への修学旅行において「平和学習」「体験学習」「教育民泊」は、ほとんどの学校が取り入れをしている。その中において、平和教育と体験学習は修学旅行期間中の学習アイテムとして大変重要である。



### 【ホロホローの森散策】

八重瀬町具志頭にあるホロホローの森は、具志頭浜と民家のある場所の間にあるジャングルで、元々地元の人達は足を踏み入れない場所である。その具志頭浜に向かうジャングルに600mほどの遊歩道が整備されている。ホロホローとは地元で「ヤブニッケイ」と呼ばれるが沢山自生していることから名付けられた愛称。ホロホローの森にはヤブニッケイをはじめ、ガジュマルやアコウ、アカギなど100種類を超える植物のほか、オオヤドカリやクロイワトカゲモドキといった希



少な生物、オオゴマダラやナナホシキンカメムシ・ナナフシなどの昆虫類、シリケンイモリ、オキナワキノボリトカゲなど多種多様な生物が生息している。また具志頭浜では、サンゴ礁によってつくられた琉球石灰岩の独特の景観を見ることが出来る。また、海岸に流れ着いたマイクロプラスチックや海洋ゴミの問題をはじめ、海の未来を考えるSDG'sの内容についても学習するプログラムもある。

### 【その他の視察先】



伊覇のシーサー



ひめゆりの塔・資料館



八重瀬メモリアルパーク

## ●民泊研修（民泊の仕組み）

八重瀬町具志頭にある自然体験学校は、農業・漁業などの地域振興や、戦跡・史跡などの地域資源を活かした体験プログラムを開発。また、八重瀬町を中心に南部の地域を連携させる事によって、広域で連携した協力体制が可能になり、交通アクセスが便利になり料金を抑えられる。さらに、地域の人材育成、地域・団体・自治体との連携をとることで整備が進んだり、安全対策や保険対応もきっちり行っている。

それらを全て、マニュアル化することにより、修学旅行などの受け入れにつながっている。その中で、受け入れの宿泊の問題を解決させたのが民泊を通した生活体験である。

完全にマニュアル化された民泊の仕組みを、自然体験学校の事務所にて研修を受けた。



## ●民泊体験～神谷清治宅

今回お世話になった神谷さん宅は、子ども達もすでに大人になって家から離れ、もうすでに6人の孫がいる74歳の初老の方とその奥さんの家で、午後6時半頃家に入り、自己紹介をし、お互い少し堅かったがすぐに打ち解けることができた。神谷さんは沖縄の楽器「三線」の名人で、この「三線体験」が人気のようだ。シャワーの後（沖縄和風呂文化がほとんど無い）すぐに食事が運ばれた。本来なら食事の手伝いを子ども達はするそうだが、手伝いを買って出たが奥さんに遠慮されて断られた。神谷さんからは家族の話、郷土の話、地元の祭の話などを聞き、我々も上ノ国や北海道の話をして盛り上がった。夜10時半頃、すぐ近くの空手道場で「棒術」の練習をしているからと、見学交流をしてきた。ここの地元の子ども達は全てこの「棒術」を習い、祭などで披露するそうだ。祭のビデオも見せてもらい、この地域の育んできた歴史や文化が色濃く残っていることをと



でも感じた。

11時頃就寝。

次の日の朝、朝食の後「三線」体験をさせてもらった。この体験は沖縄を感じられる素晴らしい体験だ。また、大学生のお孫さんが参加し、三線を弾きながら沖縄の民謡などを歌ってくれた。とにかく楽しい時間を過ごさせてもらった。お昼ご飯もそこでよばれて、沖縄で人気の「タコライス」を食べさせてもらった。とにかく奥さんは我々の手伝いを断ってきたが、奥さんの作る沖縄料理が何品も出てきて、どれも非常に美味しかった。通常なら食事作りや用意の手伝い、布団敷きや布団たたみなども全て自分たちでやるのがルールだそうです。再び訪れる事を約束して、神谷さん宅を後にした。



神谷さんの沖縄家庭料理



近くの道場での交流



神谷さんのお孫さんの演奏



三線体験

### ●政務活動成果

上ノ国は山・川・海に囲まれた自然に恵まれた場所である。また、和人が北海道で最も早くに住み、館跡などの中世の歴史が色濃く残っている。また、道内で最も古い民家やお寺や神社がある歴史的価値のあるところである。

最近では函館空港から木古内までのバイパスや、木古内・江差線が高規格道路と

して道路整備が進み、今後整備が進むにつれてアクセスが良くなると思われる。今回のこの視察調査で感じたことは、元々地元の人達は何もないと言われていた観光が皆無に近いこの場所で、ただ普段気づかない地元にあった「あたりまえ」が、整備マニュアル化することにより、修学旅行では学習の素材になる。また体験を通じて、地元にある文化や歴史や景色が都会の修学旅行生には、良い素材になると感じた。上ノ国は山・川・海に囲まれた自然に恵まれた場所である。また、和人が北海道で最も早くに住み、館跡などの中世の歴史が色濃く残っている。また、道内で最も古い民家やお寺や神社がある歴史的価値のあるところである。体験観光には十分対応できる素材がいっぱいある。

また、民泊を通じて家庭の温かさ、文化や食や地元の人に触れることで、心に響くものがある。コロナ前には、観光ほぼ0だった八重瀬町には、年間最大45,000人の修学旅行生が訪れ、宿泊体験していった。

つまり4億円近い経済が生まれたことになる。この「体験学習」「平和教育」「民泊学習」は、特別からできるものではなく、「造る努力」と「やる努力」があれば上ノ国でも十分可能性があると感じた。すでに近隣町では木古内町では「体験と民泊」を小規模ながらも実行している。また江差町でも、「マリリンピング」を中心とした体験事業に力を入れている。

この事業は上ノ国町1町だけで完結するものではなく、渡島檜山広域で受け入れできる体制ができれば、十分可能性がある。